日刊 動労千葉

80.2.26

No. 360

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一一八（動力車会館）

（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

『石川さんガンバレ！再審必らず勝ちとるぞ』

2・23 寒風ついて、千葉刑包囲斗争たたかわれる！

2・23狭山再審棄却糾弾、石川さん激励、千葉県民行動が、二月二十三日午後2時から千葉市・宝導寺台公園において部落解放同盟千葉県連合会の主催で行われた。集会には、部落解放同盟、三里塚芝山連合空港反対同盟をはじめ、動労千葉、国労等県内労組および支持共闘団体の闘う労働者市民約三〇〇名が結集した。この2・23千葉県民行動は、去る二月七日、東京高裁四ッ谷裁判長が下した狭山再審棄却という全く許すことのできない反動的な決定に対する怒りの糾弾行動と、凍てつく極寒の千葉刑務所の中で闘う石川一雄さんを激励するものとしてかちとられた。動労千葉からは、青年部を中心に代表三〇名が参加し、狭山再審棄却徹底糾弾・再審貫徹・石川さん奪還にむけて闘う決意を新たにして集会、千葉刑務所包囲デモを貫徹した。

石川さんの闘いにこたえ奪還のため闘おう

＝解放同盟関口県連書記長＝

集会は、開会宣言につづいて、差別裁判打ち砕こうの合唱によって開始された。基調報告にたった部落解放同盟千葉県連合会関口書記長は、「2・7再審棄却攻撃に対し全国各地で抗議行動が闘われている。獄中で闘う石川さんを激励するために今日は行動をとる。わが身は獄中にあれど心は常に判冠旗のもとにある　として闘う石川さんにこたえるべく、奪還のため闘おう。」と決意が述べられ、全体の拍手で確認された。その後関東ブロック野本議長のアッピールが紹介された。

連帯のあいさつにたった三里塚・芝山連合空港反対同盟北原事務局長は、再審棄却攻撃を怒りをもって糾弾し、狭山、三里塚闘争勝利まで闘う決意が表明され、3・30三里塚現地集会への結集が呼びかけられた。

獄壁をこえて石川さんを激励

連帯のあいさつの二番目に、動労千葉を代表し田中青年部長が発言にたった。「2・7再審棄却は人民分断攻撃の頂点であり、絶対に許してはならない。石川さんの闘いにこたえ、再審貫徹を闘いとらねばならない」と気迫のこもった決意を表明した。

国労千葉の代表は、「差別を許さない闘いを労働者の立場で闘う。その為に狭山闘争に結集して闘う」と発言し、動労千葉とともに全参加者の圧倒的な拍手をよびおこした。

その後、支持共闘団体の代表が次つぎと決意表明にたち、最後に解放同盟千葉県連上本佐倉支部青年部の代表が決意表明を行い集会は成功裡のうちに終了した。

さらに3・11狭山中央闘争へ！

集会終了後、獄中の石川さんを激励すべく千葉刑務所包囲デモへと出発した。強固なスクラムを組んだデモ隊は、権力に一指もふれさせず千葉刑務所へむけて力強く進撃した。刑務所正面入口前では全員で獄壁をつきくずさんばかりの石川さん激励のシュプレヒコールを行い、終始戦闘的に闘われたのである。デモ終了後、宝導寺台公園において、動労千葉、国労合同総括集会を行い、共闘をより強め、国鉄労働者の狭山闘争への決起を広範につくり出すべく互いに奮闘することをちかいあった。そして3・11狭山中央闘争に全力をあげて取り組むことを互いに確認しあって解散したのである。

反骨の創造

戸村一作遺作展要綱

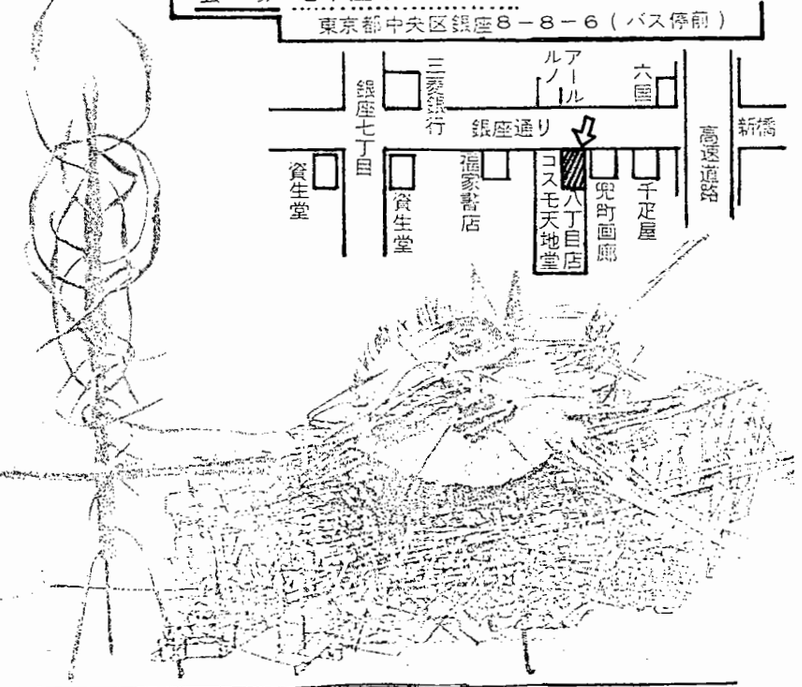
期　間　1980年2月18日（月）～3月1日（土）

期間中・無休　Am 11～Pm 7

入　場　無　料

会　場　地球堂ギャラリー　☎572-4812(B1)

東京都中央区銀座8－8－6（バス停前）



「闘う大木よね」会友 戸村一作 1973　第58回二科展

●戸村氏の七十年の生涯は、極力とのたたかいに貫かれた反骨の一生でした。三里塚芝山連合空港反対同盟委員長として、国家権力とのたたかいの先頭にたち、また職闘的なキリスト者であり、その内面の強靭な自己変革の過程のなかで、絵画・彫刻の創造活動をつづける芸術家でもあったことを忘れることはできません。

今回、東京銀座・地球堂画廊のご好意により、会場を提供していただき、戸村一作遺作展を開くことになりました。おおくの方たちのご協力・ご参加で、ぜひ成功させたいと存じます。

戸村一作遺作展実行委員会

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！